

## 在宅血液透析の有用性と導入における問題点

長崎腎病院

○宮本教司、高木伴幸、宮崎健一、李 嘉明、原田孝司、船越 哲

### 【背景】

在宅血液透析（HHD）は、施設透析と比すると日常生活の自由度が高く、長時間透析や連日透析も可能のため、QOL や生命予後の向上が期待されている。一方、自宅で透析を施行する不安感や教育・費用・管理等の諸問題より、HHD の普及率は全血液透析患者の 0.1%に過ぎないのが現状である。

### 【目的】

当院における HHD 患者の一事例、また HDD 導入できなかった他患者の状況を解析し HHD 普及を目指す。

### 【事例】

HHD 症例は 55 歳男性、透析歴 5.1 年・在宅透析歴 4.5 年。2008 年の HHD 導入からのトラブル総数は 92 件で、緊急を要する重篤なトラブル 0 件、電話対応レベルのトラブル 53 件、機械調整等 36 件、その他 3 件であった。一方、HHD の適応ではないかと我々が判断したが結局導入できなかった 150 例のうち、最終的に患者に受け入れられなかった理由は 1) 自己穿刺、2) トラブル時の自己対応、の 2 点に絞られた。

### 【結語】

現時点では HHD システムと教育の充実により HHD は安全に施行可能と思われる。しかし、HHD 患者を新規導入する上で克服せねばならない自己穿刺とトラブル時の自己対応についての根本的な解決法は未だ模索中である。今後、本会も含めて継続的に HHD の状況報告を行い、長崎県における HHD 普及向上に努めていきたい。